

平成22年度 置戸町行政評価委員会報告

(平成21年度分)

置戸町行政評価委員会

置戸町行政評価委員会報告

はじめに

置戸町にあつては、行政改革大綱に基づく行政改革の取り組みの一つとして、平成16年度に行政評価システムが導入されました。この行政評価は、行政の内部評価と町民による外部評価を取り入れることで、評価結果を町民と行政とが共有し、協働のまちづくりを目指すとしました。平成22年4月より施行されたまちづくり基本条例のなかでも、「町民のための行政」として行政評価が明確に条文化され、第5次置戸町総合計画でも「町民と行政による協働の推進」の実現がうたわれ、これまで以上の住民参加が求められています。

今年度の行政評価は、委員が新たに委嘱され、2年任期の1年目の評価となります。委員として初年度ということもあり、委員会の設置目的、役割を考えながら各種事務事業について議論を重ねました。

本委員会において開催された7回の会議から、委員会としての意見を以下のとおり取りまとめ報告いたします。

委員会の開催状況

平成22年度の行政評価委員会は、下記により7回開催しました。

(1) 第1回委員会【平成22年8月4日】

- ・行政評価委員会の役割等の確認
- ・今後のスケジュールの確認

(2) 第2回委員会【平成22年8月26日】

- ・評価方法の確認
- ・委員会評価及び意見について協議

(3) 第3回委員会【平成22年9月14日】

- ・委員会評価及び意見について協議

- (4) 第4回委員会【平成22年9月27日】
 - ・委員会評価及び意見について協議

- (5) 第5回委員会【平成22年10月14日】
 - ・委員会評価及び意見について協議

- (6) 第6回委員会【平成22年10月28日】
 - ・委員会評価及び意見について協議
 - ・担当部局との意見交換

- (7) 第7回委員会【平成22年11月25日】
 - ・平成21年度置戸町行政評価委員会報告書について協議

評価方法について

今年度の評価対象事務事業の選定にあたっては、委員自らが22件の事務事業を選定しました。また、事業を選定する際、過去に評価対象となった事務事業と同じものをできるだけ選ばないよう留意しました。

評価については、平成21年度の事務事業に対する委員会としての評価を簡潔に記載しました。主管課評価が適正であると判断し、同じ評価となった事務事業については、委員会としての参考意見を記載し、主管課評価と異なる評価となった事務事業については、その理由を記載しています。

また、主管課評価と異なる評価となった事務事業については、各担当課長とも意見交換を行い、事務事業内容の理解を深めたうえでの評価となるように努めました。

評価内容報告

市町村を取り巻く環境は、少子・高齢化の進行、地域主権の推進など国と地方のあり方についても大きく変わろうとしています。地域経済は依然として低迷し非常に厳しい情勢にあり、市町村財政も同様の状況にあるなかで、置戸町においても、現在策定中の「第5次置戸町行政改革大綱」をはじめとして、これまで以上の行財政改革に

取り組んでいかなければならない状況です。

今回、22件の事務事業について行政評価を行いました。評価を進めるにあたっては、厳しい財政状況の中で多様化・高度化する町民ニーズに応えるため、町民の視点で行政評価を行うことで、効率的・効果的な行政運営の推進に役立てたいとの思いで評価を行いました。

個々の外部評価結果については、22件中16件の事務事業が概ね主管課・内部評価のとおりであると判断し、6件の事務事業が主管課・内部評価と異なる結果となりました。主管課・内部評価のとおりと判断した事務事業についても、評価作業のなかで多くの議論が交わされ、その意見を委員会の参考意見として付記させていただきました。これらの意見が行政内部で議論され、見直しのきっかけとなり本年度実施の事務事業や平成23年度予算に反映されることを期待しています。

本年度の評価作業を終え、これまでの行政評価委員会としての課題も整理することで、今以上にこの委員会の活動が、まちの将来像である「自然を愛し、人にやさしいまちづくり」の実現に役立てればと思います。

以下、行政評価の仕組みへの意見や評価を終えての各委員の感想を含め報告いたします。なお、事務事業ごとの外部評価結果については、「置戸町行政評価委員会外部評価結果（平成21年度分）」に記載のとおりです。

■行政評価調書の構成・文章の表現について

- ・評価調書は短い文章でまとまっており、適切な構成となっている。（5名）
- ・内容が良く分からない事務事業についても、参考資料や町からの説明で概ね理解できた。（2名）
- ・300件の評価調書を読み取るだけでも大変であった。

■評価対象数、委員会開催回数等について

- ・評価対象数は20～24件程度でよいと思うが、評価にかかる時間が足りなかった。会議時間を長くとり回数を増やすなどし、より深い議論ができるようにしたほうがよい。
- ・事前調査にもう少し時間をかけて事業内容を見たかった。
- ・開催回数については適当であった。（3名）
- ・例年に比べ、22件は少ない評価対象数であり、より多くの事務事業を評価でき

ばと感じたが、評価は十分な時間をかけて行う必要があり、会議時間や委員会の開催回数を考えるとやむを得ない。(5名)

■事務事業の選定・評価方法について

- ・評価作業の開始時期を早めたり、事前に勉強などを行う方が選定しやすい。
- ・もう少し早い時期に評価調書を見せていただけたらと思う。
- ・似たような種類の事務事業が多く、選定するのが難しかった。また、主管課評価と内部評価が異なる場合などは、行政側からの選定があっても良い。
- ・自分が発言してきた評価が適当なものだったのか自信が持てない。
- ・町民アンケートを実施してはどうか。
- ・委員(町民)の興味がある事務事業については偏りが出るのではないか。関心のある事務事業の評価も必要であるが、今まで評価対象になっていないものに関しても、少しずつ加えた方が良い。
- ・評価方法は良いと思うが、事務事業の一覧表の中で、これまでに評価対象となっているものといないものが分かるようになっていると選定しやすい。
- ・時間が限られた評価作業なので、今後は評価にかかる時間配分を考えた方が良い。

■評価作業を実施して

- ・評価対象事務事業に添付する資料は、事前に委員と協議が必要である。
- ・数字だけで評価できない事務事業があり、委員によって意見が分かれることもあると思う。委員の委嘱については、広く町民に周知して公募で選ぶことが大切である。
- ・内部評価のやり方が、担当部署の垣根を越えた評価として行われているのか。
- ・町議会議員が評価をするべきではないか。
- ・委員には行政評価に関心のある人を公募から選んだほうがよい。それが無理であれば「行政評価」自体を継続するのか廃止するのか評価してはどうか。
- ・自分と関わりのなかった事務事業についても、担当課長との意見交換や説明などを聞いて勉強になった。もっと様々な分野の町民が参加できるようにした方が、評価対象の偏りがなくなるのではないか。
- ・個人的な視点ではなく、町民の代表としての視点を持たなければならないと感じた。
- ・評価している我々の責任も重く感じている。年々事業に対しての知識も広がり、ありがたく思う。

置戸町行政評価委員会外部評価結果（平成21年度分）

※主管課・内部評価と異なる評価結果となった事務事業については、それぞれの評価内容についても記載しています。

事務事業名	【通学バス定期購入費補助金】町づくり企画課
※ 主管課評価	<p><u>「このまま継続」</u></p> <p>本制度は、通学生を持つ家庭の経済的負担軽減と、利用促進による公共交通機関の路線維持、確保のために実施されている事業であり事業効果も大きいと認められることから、今後も継続して実施していく。</p>
※ 内部評価	<p><u>「このまま継続」</u></p> <p>主管課評価のとおり</p>
外部評価	<p><u>「その他」</u></p> <p>今までの補助に加え、町独自の支援策を行うなどの検討が必要</p>
理 由	<p>通学定期運賃の3分の1の補助があることにより負担は軽減されているが、経済状況が厳しい中で、年間を通したバス利用者の負担は決して少ないものではない。負担の多い家庭などにおいては、北見への移住や留辺蘂からのJRの利用なども考えられ、人口減少や北見バスの利用減少にも繋がるのではないかと。</p> <p>近隣市町で足並みを揃えた制度であり、財源にも限りがあることは理解するが、遠距離のため比較的運賃が高い置戸町においては、基本的な負担額の軽減や通学生が二人以上いる場合など、町独自の支援策を行ってはどうか。</p>

事務事業名	【置戸町森と住まいの支援補助金】町づくり企画課
※ 主管課評価	<u>「このまま継続」</u> 住宅建設にあたり、制度要件を満たしたすべての住宅が本制度の適用を受け、1件あたりの助成額が100万円を超えていることから、本制度が有効に活用されたと考えられ、今後は、更なる制度の周知と認証材の利用促進を目指し、本制度を継続していく。
※ 内部評価	<u>「このまま継続」</u> 主管課評価のとおり
外部評価	<u>「内容を変更し継続」</u> 森林認証材が活用されるよう工夫が必要
理 由	森林認証の利用が補助内容に入っているが、認証材利用がない状況である。このままの条件では今後も利用されないのではないか。森林認証制度を推進するのであれば、補助金額の引き上げや建設業者条件の緩和、認証材を利用したリフォームにも補助を行うなど内容の検討を行い、利用してもらうよう工夫が必要である。

事務事業名	【町有施設の維持管理（コミュニティホール）】総務課
評 価	<u>「このまま継続」（主管課・内部評価のとおり）</u> 町の中心施設として必要な修繕は必要。電気代など節約の工夫も継続
参考意見	施設の中で雨漏りをしていたり、ところどころ電球が間引かれたりしている様子は、町の顔となる施設としてはふさわしくない状況と感じる時がある。節約も必要なことなので、電球をLEDに交換する方法なども試行してみてはどうだろうか。

事務事業名	【その他財産管理】総務課
評価	「このまま継続」(主管課・内部評価のとおり) 町有施設の維持管理のため必要である。
参考意見	数多くある町有施設を適正に管理していくため必要な事務事業であるが、現在使用していない施設で維持管理経費が高い施設などは、売却するなど経費節減の検討も必要ではないか。

事務事業名	【勝山ふれあい農園管理】産業振興課
※ 主管課評価	「このまま継続」 経済状況が低迷する中、遠隔地の農園利用が敬遠され、町内外とも利用が増加しない。既利用者からは豊富な堆肥投入などにより土質が良く、作柄も良いことから継続を望む声もある。 長雨によりぶどうの生育状況が悪く、今後の経過を見極め、景観作物の作付けに切り替えていく必要がある。
※ 内部評価	「このまま継続」 ～参考意見～ 利用者増のためのPR活動を拡充する。
外部評価	「その他」 廃止も含め、今後の方向性について議論する必要がある。
理由	伝書鳩などに広告を出しているが、町場からの距離もあり、今以上の利用は見込めないのではないか。また、温泉ハウスも廃止となり、勝山温泉周辺としての景観もよくない。これまでの担当者の様々な苦勞も理解できるが、進もうとしている方向性が見えてこない。 少数ではあるが利用はあり、ゆうゆへの入込客として期待できる側面もある。活用策(観光資源)としての可能性と農地への復元の経費など検討したうえで、廃止も含めた議論を進める必要がある。

事務事業名	【農業経営基盤強化資金利子補給金】産業振興課
評価	「このまま継続」(主管課・内部評価のとおり) 今後も継続すべき。
参考意見	農業者の安定した経営のためには効果があり、必要なので続けていくべき。

事務事業名	【おけと湖周辺観光施設管理運営事業】産業振興課
評価	「このまま継続」(主管課・内部評価に同じ) 将来を踏まえての方向性を検討する必要がある
参考意見	メモリーハウス周辺の施設を今後も観光資源として捉えていくのか、将来に向かっての方向性を検討する必要がある。休止している施設については、これ以上施設と施設周辺の環境を悪化させないよう現状を維持していくことが必要である。

事務事業名	【おけと夏まつり実行委員会補助金】産業振興課
評価	「このまま継続」(主管課・内部評価のとおり) PR活動などの効果は出場を希望するチーム数の増加などに現れており、このまま継続すべき。
参考意見	商工青年部を中心とした各方面へのPR活動は、出場チームの多さからも効果は現れてきている。こうしたPR活動には町のバックアップが必要不可欠であり、今後も継続した支援をすべきである。 来年は35回の記念大会であることから、さらなるPR活動や記念イベントのための支援があつていいのではないかと。

事務事業名	【軽度生活援助事業（介護予防・地域支え合い事業委託）】地域福祉センター
※ 主管課評価	<p>「このまま継続」</p> <p>介護予防および日常生活の不安解消に一定程度の効果があり、現状程度の事業の継続の必要性があると考えます。</p> <p>制度の周知及び実施する小地域ネットワークの体制支援及び体制の見直しについて協議するとともに社会福祉協議会が中心となり継続が必要。</p>
※ 内部評価	<p>「このまま継続」</p> <p>主管課評価のとおり</p>
外部評価	<p>「その他」</p> <p>制度の周知・PRが必要。</p>
理 由	<p>こういった制度があることを知らないお年寄りがいるのではないかと。まちのお知らせなどで周知する方法もあるが、文字だけの情報ではうまく伝わらないことも考えられる。対象となりそうな人に直接知らせるなど、周知方法にも工夫が必要である。</p> <p>また、利用者がいてもサービスを提供する人がいなければ実施できない。サービスを提供出来る人や組織を広げることも考えてはどうか。</p>
事務事業名	<p>【入園者の生活】養護老人ホーム</p> <p>【入園者の援助事業】養護老人ホーム</p>
評 価	<p>「このまま継続」（主管課・内部評価に同じ）</p> <p>要介護者の増加に対応した適正な人員配置をし、安心した介護サービスを継続してほしい。</p>
参 考 意 見	<p>社会福祉協議会が民営化の委託先として検討されているが、民営化することで、人手や食事などサービスの低下を招くイメージがある。福祉現場の仕事は命にも関わる仕事であるので、金銭面だけではなく、職員の待遇についても保障すべきところは保障し、サービスを低下させないよう慎重に民営化を検討してほしい。</p>

事務事業名	【置戸高等学校支援対策協議会交付金】学校教育課
評 価	「このまま継続」(主管課評価・内部評価のとおり) 福祉科のPR活動などの効果は入学希望者の増につながっている。
参考意見	策を講じなければ入学者を確保することは難しい。遠距離通学者への補助をはじめ福祉科の支援・PR活動により、入学者は確保されている。これからも継続した支援が必要である。 また、置戸高校に来てもらうための支援だけではなく、卒業後の進路や就職先にも繋がるような支援を行うことで、学校の存在価値が高まり、継続的な入学者の確保にもつながっていくのではないだろうか。

事務事業名	【統合小学校グラウンド整備工事】学校教育課
※ 主管課評価	「廃止」(平成21年度で廃止) 事業完了により事業廃止
※ 内部評価	「廃止」(平成21年度で廃止) 主管課評価のとおり
外部評価	「その他」 事業終了の翌年にグラウンドが使用できなかったことで、運動会の開催などに支障があった。工事の工期に配慮すべきである。
理 由	平成21年度で事業は完了しているはずであるが、グラウンド芝の生育が遅れ、平成22年度に運動会が開催できていない。小学校4年生から小学校のグラウンドで運動会を経験できないまま卒業する子どももいたことになる。今後、グラウンド整備等の工事を行う時は、芝生の成長・管理を考慮した工期の設定をする必要がある。

事務事業名	【国際化教育】学校教育課
評価	「このまま継続」(主管課・内部評価のとおり) 子どもの英語教育、文化交流に効果があり今後も継続すべき。
参考意見	国際化の時代に生きた英語に触れる機会を作ることは、子どもにとって大切であり、今後も継続していくべき。限られた授業時間の中で英語指導で、英語を身に付けてもらうことは難しいことと思うが、授業以外の場でも町民とふれあう時間を設けることにより、英語や外国の文化にふれる時間を増やすことを検討してほしい。

事務事業名	【置戸町山村留学推進協議会交付金】学校教育課
※ 主管課評価	「このまま継続」 各地域の情報及び統合小学校への通学情報などの提供を図りながら継続する。
※ 内部評価	「このまま継続」 主管課評価のとおり
外部評価	「その他」 実施方法の見直しが必要。
理由	山村留学家族を受け入れた地域の中で、お世話をする一部の人に負担が偏っている現状があるように思われる。小学校が統合となり、また、受入がない状況から、この事業を継続していくのかを含め、山村留学の新しい方法を検討する時期にきているのではないかと。

事務事業名	【若者交流センター管理】学校教育課
評価	「このまま継続」(主管課・内部評価のとおり) 市街地区の宿泊施設として必要であり、このまま継続する。
参考意見	市街地区の宿泊施設としてなくてはならない施設であり、このまま継続すべき。 しかし、利用申し込み時に電話がつながらないことがあるようなので、管理人不在時間帯の利用客からの対応方法について、転送電話を検討してはどうか。 また、学生がいない施設となり、宿泊施設としてのサービスを求められることから、今後は、管理運営方法について委託や指定管理などの方法を検討する必要があるのではないかと。

事務事業名	【スクールバス運行】学校教育課
評価	「このまま継続」(主管課・内部評価のとおり) 遠距離通学児童の安全な通学のため必要である。
参考意見	民間に委託されたが、スクールバスでの通学に影響はない。 部活動に対する運行についての利用要望は多いと思われるが、内容を吟味したうえで、可能な限りの対応をしてほしい。

事務事業名	【給食センター管理運営】学校教育課
評価	「このまま継続」(主管課・内部評価のとおり) 子どもの食育を支える給食センターの役割は大きい。
参考意見	最近、置戸の給食がメディアなどで取り上げられ、給食センターを中心とした食育が広く理解されている。オケクラフトの食器を使用した給食も評価されており、今後、給食器の修繕や交換の予算を確保し、給食の内容とともに置戸らしさをアピールしてほしい。

事務事業名	【愛タウンふるさとづくり協議会交付金】社会教育課
評価	「このまま継続」(主管課・内部評価のとおり) 地域の活性化や定住にも結び付いている。
参考意見	地遊人として来た人達は行動力があり積極的な人も多いため、地域の活性化にも繋がっている。地遊人としての期間終了後も置戸に残る人が多く、定住にも結び付いていることから、JAきたみらいからの交付金の有無にかかわらず、町として継続していくべき。

事務事業名	【森林工芸館管理】森林工芸館
評価	「このまま継続」(主管課・内部評価のとおり) 森林工芸館は他の町にはない教育施設として地域に貢献してきた。今後もその施設や機能を発揮してほしい。
参考意見	以前に比べて売り場の団体客が減っているように思われる。また、研修生の制度も休んでいるので工芸館に入った時にさびしく感じる。工芸館の活気のためには研修生の活躍は不可欠ではないか。また、研修期間が終了した後、経営者としての意識を深める意味で、商工会への加入を積極的に促してはどうだろうか。 農産加工室の利用について、みそづくりなど、利用者の要望に応えられるよう、今ある設備を修繕しながら活用してほしい。

事務事業名	【オケクラフト流通普及宣伝事業補助金】森林工芸館
評価	「このまま継続」(主管課評価・内部評価のとおり) 宣伝活動・情報収集を継続してほしい。
参考意見	都市部での展示会や新聞などのメディアに取り上げられる宣伝効果は大きなものがある。生産者自ら宣伝活動を行い、情報を得る作業は大変重要である。経験の少ない生産者にとっては貴重な機会であり、生産者を育てる意味から、町として必要なバックアップ事業である。 また、オケクラフトの流通のためには生産者が組織化することで活動しやすく、援助を受けやすい面もあると考えられる。組織化に向けた動きを積極的に行うことも必要ではないか。

事務事業名	【ふるさと交流推進協議会交付金】社会教育課
評 価	<p>「このまま継続」(主管課・内部評価のとおり)</p> <p>相手の状況も理解しつつ内容を工夫してこのまま継続すべき。</p>
参考意見	<p>多摩市永山地区の子ども達とのホームステイを通じた交流は、ふるさと交流時の子どもやその親にとって貴重な経験であるばかりでなく、その後継続した関係が生まれるなど、深い絆を生む事業として歴史を重ねてきた。</p> <p>将来的にも継続していけるかどうかは、多摩市永山地区側の意向も働くことであることから、今以上に置戸に親しみや魅力を感じてもらえるようなPR活動と支援についても検討してはどうか。</p>

置戸町行政評価委員会委員

委員長 松田 親

副委員長 佐藤 年光

委員 柏原 勝

委員 木村 亜矢子

委員 佐藤 淳

委員 嶋谷 理恵

委員 鈴木 良吉